

快拳！！ 北京オリンピックへ別海町出身の3選手が出場

北海道ふるさと会連合会会長
東京・別海ふるさと会会長
新家 鶴男

ひとつのオリンピック大会に別海町から同時に3選手が出場する。スピードスケートの北京冬季五輪代表に根室管内別海町出身の次の3選手が選ばれました。

[男子 500メートル、1000メートル]

[新浜 達也\(25\)](#) 高崎健康福祉大職員、別海町尾岱沼出身、「別海スケート少年団白鳥」出身。現在の日本記録保持者、2018年のワールドカップで初優勝、翌年には当時の世界記録を出し、今回の代表選考会では森重選手に続く2位だった。

[森重 航\(21\)](#) 専修大学、別海町上風連出身、「別海スケート少年団白鳥」出身。今季ナショナルチーム入りし、瞬く間に世界のトップスケーターの一人となった。全日本距離別選手権のスケート男子500メートルで初優勝、ワールドカップで頂点にたち、北京の舞台へ一直線。

[女子 500メートル]

[郷 亜里砂\(34\)](#) イヨテツスピードクラブ、別海町出身、実家は別海町西春別駅前の別海パークホテル。平昌オリンピックでは500メートル8位入賞、1000メートル18位。北京オリンピックへ2大会連続出場。

別海町出身のオリンピックによる指導をはじめ、地域ぐるみで選手を育む土壌が、人口約15000人足らず（牛が約12万頭）の小さな町から、大舞台に3人も排出する快拳を生んだ。指導者の元スピードスケート選手で長野五輪に出場した別海町出身初のオリンピック、森野(旧姓楠瀬)志保さん(52)は「このタイミングで、別海町からこんなに名前が挙がるなんて奇跡に近い」と語る。

「別海スケート少年団白鳥」は1981(昭和56)年に設立され、40年の歴史がある。1966(昭和41)年、楠瀬 功(77)は別海町の高校の体育教師に赴任。もともとサッカー指導が専門だったが、町には当時、通年でサッカーの練習をする環境がなく、体力作りのためスケートに取り組んだ。もともとスケート文化があった町に、競技としてのスケートを根付かせた。

北方領土に向かい合う北海道の東にある別海町から、北京五輪で金メダル獲得の期待がかかるスピードスケーターが現れた。しかも2人も。

北海道ふるさと会連合会会員の皆さん 日本選手の応援よろしく申し上げます。